

二代目 宮野鉄之助の鋸が寄贈されました

二代目宮野鉄之助作の「本職用鋸」が金物資料館に寄贈されました。東の名工 大場正一郎、西の名工 宮野鉄之助 と並び称されるほどの伝説的職人の作った逸品です。過去に寄贈頂いた宮野平次郎の鋸及び宮野鉄之助の片刃鋸と共に展示をしております。未使用の大変貴重な鋸を是非ご覧いただければと思います。

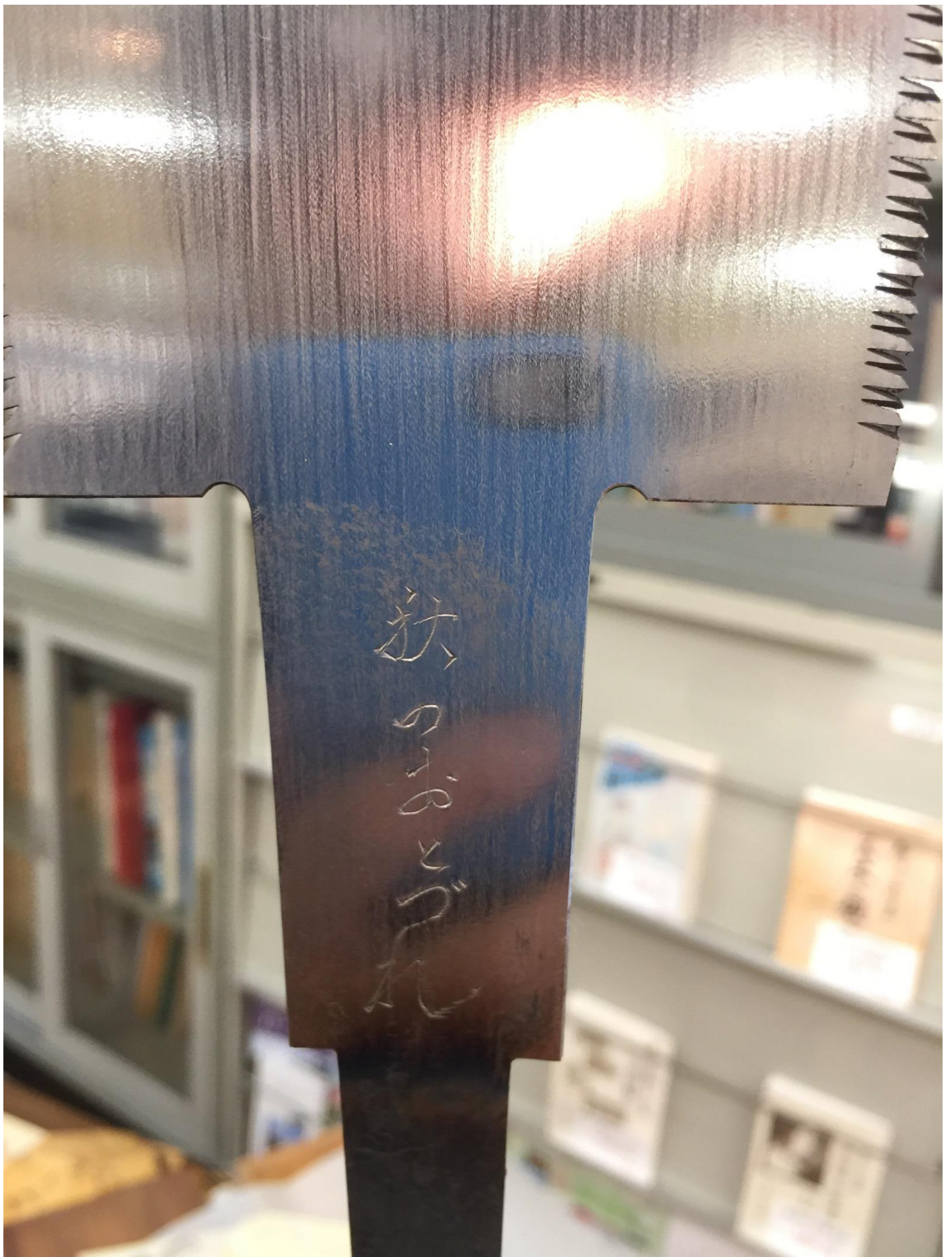
寄贈された鋸について

銘：秋のおとづれ

状態：未使用 箱・手紙付

製作者：2代目 宮野鉄之助







昭和十一年
四月九日
東京
海軍省
製作

二代目宮野鉄之助について

明治34年(1901年)に三木市福井に生まれ、本名を遠藤政一郎と言う。通称として遠藤朝也(えんどうともなり)と名乗る。地元で鋸鍛冶を見習い、大阪に出て目立ての修業をした後に三木に戻り、初代「宮野鉄之助」に弟子入りする。その後昭和13年には、その鋸製作の技量を認められて二代目「宮野鉄之助」を襲名した。

二代目「宮野鉄之助」は刀剣鍛冶の修業も行い、昭和15年に新作日本刀展で銀賞を受賞する。昭和17年頃には、名匠宮入昭平(後の人間国宝)らと共に刀剣造りの研究をし、昭和19年に総裁名誉賞を受賞する。この時代、刀匠として「遠藤四方斎朝也(えんどうしほうさいともなり)」とも名乗る。昭和48年には、伊勢皇太神宮に新刀一振りを奉納した。

このような刀剣造りと並行し、たたら製鉄法により自ら玉鋼を作り、刀剣造りの技術を活用して玉鋼で製作する鋸造りに精進を重ね、玉鋼の鋸を世に出し続けた。そして、その製造工程を記録文等に残し、三木金物の歴史にも大きく貢献し、「二代目宮野鉄之助 遠藤四方斎朝也」の名声は、一層高まる。